様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：３４５１１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０２８３２

研究課題名（和文）日本語教員養成と日本語学習者のため双方向学習プログラムの研究

研究課題名（英文）Research on the online exchange program for Japanese language teaching and learning

研究代表者
安原　順子（YASUHARA, Junko）

神戸女子大学・文学部・教授

研究者番号：４０３０９４３０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本語教員養成と日本語学習に資するオンライン上の双方向授業において、ｅポートフォリオ等を活用し、双方向型授業プログラムの構築について研究した。reflective journal（学習ダイアリー）を使用する双方向授業を生かし、ニュージーランドの大学(オークランド工科大学（AUT））との間で日本語教員養成と日本語学習に資する双方向授業を実施した。ｅポートフォリオに学生が提出したreflective journalや教案を質的に分析し、効果的な双方向型プログラムを構築し、プログラムの有効性を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の成果として、日本語教員養成と日本語学習者のためのオンライン上の双方向学習プログラムモデルの構築と効果の検証を挙げる。reflective journalを質的に分析した結果から学習効果を検証し、対象となる授業を使用した効果的な双方向学習プログラムのモデルが構築できた。同時に外国人への日本語指導を通して得た知識や学生の指導力の向上も確認できた。本プログラムは、遠隔授業の一形態として、さまざまな学習者主体の学習プログラムにも応用が可能であり、普遍性を持つと考えられる。主役は学習者であり、今後、双方向学習プログラムは学びを促進するツールとして活用でき、学びのネットワークの起点となる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to develop the online exchange program for Japanese language teaching and learning by using the e-Portfolio Japanese language tutorial system and so on. By using reflective journals, we tried to do the online exchange program between Kobe Women's University and Auckland University of Technology (AUT). We analyzed the reflective journals and teaching plans which students submitted to the e-Portfolio through qualitative analysis. We developed the effective online exchange program for Japanese language teaching and learning.

研究分野：日本語教育

キーワード：双方向授業　日本語教員養成　日本語学習　reflective journal　質的分析　ｅポートフォリオ　オンライン　遠隔授業

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

外国人への日本語教育分野においても、その他の外国語教育分野と同様に、マルチメディアを使用した教育の実践は進展が著しい。国内では、(社)私立大学情報教育協会の主催で「教育改革・IT 戦略会議」が毎年開催され、ポートフォリオ、e-learning、iPad、携帯電話、ブログなどを使用した日本語教育の試みも多数報告されている。

国外では、2012 世界日本語教育大会 ICJLE 名古屋、2014 世界日本語教育大会 ICJLE シドニーが開催され、国内外の日本語教育において、マルチメディアを使用した日本語教育への関心は高まっている。しかし、日本語教育が、教える側・教えられる側からの一方向的な教育の形態では、日本人学生・外国人学生が長期間学習意欲を持ち続けることは困難であった。

このような現状を踏まえて、本研究代表者は、海外研究協力者とともに、2008 年度より、神戸女子大学と提携校であるニュージーランドのオークランド工科大学(以下 AUT と略す)間で、AUTonline（AUT が管理する e-learning システム）を使用した双方向授業を試行し、試行の結果と問題点を 2009 年 「教育改革・IT 戦略会議」、2010 世界日本語教育大会 ICJLE 台湾、2011 世界日本語教育大会 ICJLE 天津で報告した。

２．研究の目的

研究期間内に、以下の 2 点を明らかにする。

(1) 日本語教員養成と日本語学習者のため双方向学習プログラムモデルの構築と検証

・神戸女子大学学生:双方向授業などを通し外国人の書いた日本語を読んだり、話した日本語を聞いたりすることや、実際に外国人への日本語指導を通して得た知識や指導力を、ｅポートフォリオの提出物から振り返る。

・AUT 学生：日本人学生と接して、日本語学習に対する学習姿勢にはどのように変化があったか。

(2)双方の reflective journal（学習ダイアリー）を質的に分析した結果から考察した学習効果の検証

使用する質的分析は、SCAT（Steps for Coding and Theorization）と称され、言語データを 4 ステップで SCAT フォームに書き込み、さらにストーリー・ラインと理論を記述するというものである。

３．研究の方法

(1)まず、国内外の日本語教育機関間の交流形態を調査し、実態を明らかにする。

(2)次に示す授業（文字を使用する双方向授業、音声を使用する双方向授業）を中心に、AUT（オークランド工科大学）研究者とともに学習プログラムモデルの試案を作成し、実施する。

(3)学習者の reflective journal、指導案、レポートを、その他の資料とともにｅポートフォリオ化して保存し、質的に分析する。

(4)AUT 研究者と協力して、双方向からの視点で分析を行う。

(5)プログラム有効性について検証し、さらに改良を加え、構築したｅポートフォリオを活用した双方向学習プログラムが他の機関での授業モデルとなるようにする。研究期間は、平成 28 年度から平成 30 年度の 3 年間である。

研究計画では、研究対象となる授業の試行と連携教育を 3 年間行い、3 年目を研究完成年度とする。大学 3・4 年生を対象に、1 年間に 2 種類の授業を行い、授業を通した日本語指導者の育成方法と reflective journal を質的に分析した結果から学習の有効性を検証する。reflective journal をｅポートフォリオの一部として活用し、質的に分析する。また、その内容をチェックし、必要な助言を与えることで、効果的に日本語教員を育成する方法論を明らかにする。

研究方法：

・国内外における日本語教育機関での交流形態の調査をする。

・ｅポートフォリオに提出した以下の対象授業の reflective journal、指導案、レポートなどを分析し、自己評価、相互評価、教師による評価を行う。

・双方の学生は、以下の授業に参加し、毎週各自が学習を自己評価して、その結果を reflective journal として双方向授業では AUTonline に提出、常時「学習の振り返り」を行う。

・神戸女子大学学生は、外国人日本語学習者の使用する日本語から、文法・音声の誤用についてレジュメにまとめて授業で発表し、ｅポートフォリオとして提出する。

<u>対象となる授業１</u>:

対象者：

・神戸女子大学…3 年生の日本語日本文学演習Ⅱ（日本語教育ゼミ）

・AUT…3 年生主体の Japanese in the Global World (JGW、AUT 日本語科では最上級レベルの本語クラスで、ヨーロッパ言語共通参照枠　CEFR・B2 レベル相当する)

参加予定学生： 神戸女子大学…約 10 名(日本人学生および留学生)、 AUT…約 10 名

授業内容:

双方向授業…AUTonline 使用し、実施する。

双方向授業のテーマ:「ソトから見た日本人、ウチから見た日本」、「海外長期滞在と移住」など。

AUT と神戸女子大学生でグループを作り、グループごとに一つのブログを用意する。
・ブログ使用の授業：文字を使用する双方向授業
①AUT 学生は２週間ごとに各テーマについての課題作文をブログに書き込む。
②神戸女子大学生は、それに対するコメントをブログに書き込む。
・スカイプ使用の授業：音声を使用する双方向授業
①担当教員がスカイプでのインタビューを設定し、ブログのテーマに沿って日本人学生が用意し、ブログ上に書き込んだ質問に答える。1グループ約 15 分間の交流を行う。テーマに沿った三つの質問と答えのビデオレターを交換する。
<u>対象となる授業２</u>：　日本語模擬実習、日本語チューター
参加予定学生等：神戸女子大学 3・4 年生
授業内容：　日本語指導の実践…e ポートフォリオを通して実習の指導を行い、教育実習案、教材、reflective journal を提出する。
①日本語模擬実習(海外教育実習を含む)
　学内、海外で e ポートフォリオを活用した日本語教育実習を実施する。
②日本語チューター
　授業の一環として外国人留学生･研修生対象の 1 回完結型の日本語指導を毎週行う。指導は、外国人が日本語で「～できる」ことを重視する。また、Plan(企画)、Do (実施)、Check(点検)、Action(改善)という PDCA サイクルを重視し､常に外国人のニーズの変化に対応できるようにする。
　平成 29 度は、前年度実施の反省点を踏まえて、修正したプログラム内容を検討し、研究対象とした。平成 30 年度は、3 年間の集大成として双方向授業、模擬実習、日本語チューターなどを行った。年度末には、3 年間の研究計画遂行の検討と同時に、研究代表者が海外研究者協力者とともに研究成果をまとめた。また、3 年間の間に国内外での成果発表を行った。さらなる研究の発展のために、神戸女子大学 online manaba の試用を検討した。
　さらに、研究を円滑に進めるために、以下のような準備を行った。
①AUT との双方向授業については、担当者がメール、スカイプなどで連絡を取り合って進めていき、計画の修正が必要な場合は、迅速に対応する。学内での日本語指導については、e ポートフォリオを活用し、教師が毎回指導、助言を与え、問題点を解決する。
②情報機器のトラブルについて研究代表者や海外研究協力者が対処できない場合は、本学情報センターのバックアップを受ける。また、情報機器関連の新しい情報や機器の使用方法についても、随時説明を受ける。

４．研究成果
　日本語教員養成と日本語学習者のため双方向学習プログラムモデルの構築と検証と(2)双方の reflective journal を質的に分析した結果から考察した学習効果の検証について、3 年間の検証の結果、対象となる授業 1 と授業 2 を使用した双方向学習プログラムのモデルを検証し、効果的なモデルが構築できた。同時に外国人への日本語指導を通して得た知識や指導力の向上は、日本語日本文学演習Ⅱでの発表レジュメやｅポートフォリオの提出物等から確認できた。

(1)プログラムでは、各学生は発表用レジュメ作成のため、AUT 担当者のブログの日本語を添削し、ビデオレターの日本語を繰り返し聞くことで以下の気づきが得られ、それが学生の自律学習へと繋がっていった。
〇外国人日本語学習者の日本語を書く能力
　・助詞の間違いが多い。
　・パソコン使用で、漢字の変換ミスが多い。
　・カタカナ語を正確に表記できない。
　・日本語の表現が間違っている。
〇外国人日本語学習者の日本語を話す能力
　・アクセントの間違い。
　・長短音の区別ができない。
　・カタカナ語を、英語の原音に近い音声で発音してしまう。

(2)SCAT による質的分析の結果は、発表論文　安原(2017,2018,2019)の SCAT の表に一部を記述している。その分析から、以下のようなことが分かった。
〇神戸女子大学学生
　①学びについての気づき
　・異文化と接触して、母語・母文化を考える。
　・双方向授業の利点を生かす。
　・母語・母文化について意識の変化をもたらす。
　②学びの実感
　・教え、説明する方法を学び、知識を向上させる。
　・日本語教師としての自覚を促す。
　③今後の学び

・将来の自分を見据える。
・日本語教師になるための知識を蓄積する。
○AUT 学生
①学びについての気づき
・異文化と接して目標言語とその文化を考える。
・双方向授業の利点を生かす。
②学びの実感
・目標言語の習得を促進させる。
・言語学習の定着をはかり、達成感を自覚する。
③今後の学び
・総合的な日本語の応用力をつける。
・必要な分野の自律学習を促す。

(3)双方向学習プログラムの実施後には、以下の結果が得られた。
①学生が主体的に学修し、成果を実感できる。(自己評価)
つまり、学習者オートノミーの育成に繋がる。
②reflective journal の使用と分析、ｅポートフォリオ化により、学生自身に加えて、担当教員も授業の効果や問題点を把握しやすい。(教員による評価)
つまり、教師オートノミーの発達に繋がる。
③学生同士の相互評価が期待できる。(相互評価)
外国人学生、日本人学生間で、互いに学習についての内省が期待できる。つまり、協働学習による相互評価が期待できる。

さらに、遠隔授業の一形態として、さまざまな学習者主体の学習プログラムにも応用が可能であり、普遍性を持つ研究課題であると考えられる。主役は学習者であり、双方向学習プログラムは学びを促進するツールとして活用でき、学びのネットワークの起点となる。
異文化間コミュニケーションにおいてオンライン上の双方向授業とreflective journalを使用することにおいては、その効果が質的に分析され、有効性は実証されている。しかしながら、それだけでは、十分な知識と指導力を持った日本語教員の養成や日本語学習者の育成にはつながらなかった。
そこで、これまでの双方向授業の研究成果を踏まえて、新たに学習者オートノミーを育てるｅポートフォリオを使用した双方向学習プログラムを構築し、遠隔授業の一形態としても必要とされる授業モデルを研究対象とすることにする。この研究は、科学研究費採択課題である「日本語教員養成と日本語学習者のための双方向学習プログラムの研究」(課題番号　16K02832　平成 28 年度～平成 30 年度）をさらに発展させた研究内容となる。
例えば、「対象となる授業 1」に以下のような授業を付加する。
合同発表：両大学の学生がグループでテーマを選んで協働し、online 上で発表する。

今後は、これまでの成果に「学習者の自律性」を助ける学習を付加したプログラムを、研究対象とする。いわゆる自分で学んでいける学習者を育てる「学習者オートノミー」に焦点をあてて、さらに双方向授業についての研究を継続・拡張する準備は整っていると言える。
本研究を基礎研究として位置付ければ、双方向学習プログラムの活用方法が拡がり、波及的な効果も期待できる。

５．主な発表論文等
〔雑誌論文〕（計 5 件）
①安原順子、日本語教員養成と日本語学習に資する双方向授業プログラム―平成 30 年度の報告と学習者オートノミーの構築―、神女大国文、査読無、第 30 号、pp.55-62、2019
②安原順子「模擬授業」について　神戸女子大学教職支援センター、教職課程年報、査読無、13 号、pp.35-36、2019
③安原順子、日本語教員養成と日本語学習に資する双方向授業プログラム―平成 29 年度の報告―、神女大国文、査読無、第 29 号、2018、pp.51-57
④安原順子、「授業力」を考える、教職課程年報、査読無、12 号、2018、pp.26-27
⑤安原順子、日本語教員養成と日本語学習に資する双方向授業プログラム―現状と問題点―、神女大国文、査読無、第 28 号、pp.106-112、2017

〔学会発表〕（計 3 件）
①安原順子、日本語教員養成と日本語学習者のための双方向学習ブログラム－現状と今後の展望－、2019 年度教育イノベーション大会、アルカディア市ヶ谷（東京)、2019
②安原順子、日本語を教える－外国人教師と日本人教師－、第一回国際シンポジウム、華南師範大学日本研究国際交流センター、広東省広州市(中国)、 2017
③安原順子、日本語教員養成と日本語学習者のための双方向学習ブログラム－現状と課題－、Bali ICJLE 2016 日本語教育国際研究大会、バリ島(インドネシア) 、2016

６．研究組織
(1)研究代表者
研究代表者氏名：安原　順子
ローマ字氏名：YASUHARA, Junko
所属研究機関名：神戸女子大学
部局名：文学部日本語日本文学科
職名：教授
研究者番号（8 桁）：40309430

日文ゼミⅡ　第　回　reflective journal 学習の振り返り（　月　日　曜日締切課題）
名前

１．AUTonline を使用して、私が現在までに学んだことは…

２．AUTonline を使用して、私が現在までによくできたと思うことは…

３．難しかったこと、うまくいかなかったことは…

４．AUT 学生との交流について

５．ブログへのコメントはうまく書けましたか。

６．AUT の学生にコメントを返しましたか。

７．音声の質問はうまく作ることができましたか。

８．　AUTonline をどのくらい使いましたか。自宅も学校も含めての回数です。

９.「異文化理解」について、あなたが理解できて良かったと思うことについて書いてください。

10．　何でも自由に感想を書いてください。

図１　reflective journal の例